

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171200140), 法人名 (すまいる株式会社), 事業所名 (グループホームすまいる), 所在地 (恵庭市和光町4丁目8番1号), 自己評価作成日 (令和元年12月6日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中、楽しく穏やかに過ごしていただけるよう努めています。
・庭には花や野菜を植えており、外気浴をしながら景色を楽しんだり、野菜の収穫をしたりながら、季節を楽しむ事ができます。
・毎日の体調管理を徹底しており、看護師、介護職共に日々の状況を細やかに支援しております。
・「食べる」を大切にし、季節の物や、好きなものをメニューへ取り入れたり、外食やバーベキューを行うなどして楽しんでいただけるよう、努めています。また、一人一人に適した食事の状態を工夫し、提供しております。
・午前・午後に職員と利用者様とで、ラジオ体操をして体力作りをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0171200140-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年2月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.ホームの環境と介護設備等の機能性: 和光町の閑静な住宅街にあって、恵庭岳を遠望できる穏やかな環境にあり、介護設備の浴室が2か所、トイレ等も利便・効率性よく配置され、ホーム内の家庭的な雰囲気づくりに工夫している。
2.職員の介護態度・姿勢: 職員は利用者の観察・傾聴に努め、真摯に、優しく対応して利用者・家族の意向を受け止めた介護支援に努めている。
3.家族等の介護への反応: 家族は来訪時等の職員の応接、報告の丁寧さ、細かさ、優しく気軽な対応に高い満足を得ている。またチーム全体が家庭的で気安く、温かさを感じている。
4.運営推進会議の開催状況: 会議は議題を明確にして、参会者(包括支援センター、市職員、地域関係者、民生委員、家族等)に日常の運営状況を詳細を説明して、意見の反映に努めている。
5.地域組織・機関との連携: 地域組織・関係機関との連携は相互にその意義の重要性を理解して、連携(行事・会議等)の協力強化に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	7つある事業所理念を職員間で理念を共有し、介護の実践ができるよう心掛けている。	理念の骨子は「安全・楽しく・穏やかな日々のひと時を大切に、個々が生きる」。このことを、職員全員が理解し、共有して、真摯な姿勢で利用者・家族の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市や町内の催し物の情報を事前にチェックし、参加できるようにしている。	地域町内会等との連携を深め、バーベキューの際は近隣の方も含めて楽しい食事や、夏祭り等行事を楽しみ、参加の機会も得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を持っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、現状の報告を通して、意見の交換をしたり、サービスの向上に対するアドバイスをいただいたりしながら、それを現場で反映させている。	運営推進会議は定例に開催して参会者(家族、市の担当者、民生委員、町内会関係者、包括支援センター)に運営の詳細を資料を提示して説明して、意見等を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、市町村担当者に事業所の実情を知っていただける機会を持ち、協力関係を築いている。	行政担当者が推進会議に参加して直接、利用者の生活状況を肌で感じて意見をもらうなど、行政指針等と共に運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束行為を理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者様に危険がある場合は、やむなくご家族同意の上、身体拘束を行う流れとなっている。夜間は危険防止の為、扉の施錠をしている。	定例の委員会での協議事項をカンファレンス会議や申し送り時に共有し、議事録の閲覧の確認を求めている。職員は拘束禁止の趣旨を理解して、人権等を損なうことのないよう適切な介護支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通じ、虐待に対する理解を深め、一人ひとりが虐待を行わない、という意識を持てるよう努めている。また、職員同士コミュニケーションを取りながら、何か問題が起こった時には指摘しあえるような関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の研修には行けていない。成年後見制度について研修に参加して職員で学べるよう予定している。社協と連携をとり後見人を立てた利用者様がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行い理解していただいたうえで契約させている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がいらした際には、話しやすい雰囲気を作れるよう職員内でも努めている。運営推進会議に参加していただけるご家族の方には、その際にご意見いただいている。	家族とホームの連絡は月例の「すまいる便り」のほか、生活の変化に応じた迅速な報告、来訪時には意見や要望に耳を傾けるなど、親しい関係に留意して運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常生活の中や、職員会議を通し、職員の意見を聞くようにし、業務へ反映させている。ユニット連絡会を開き皆の意見を聞いている。	職員相互のコミュニケーションに留意し、目的を明確にして業務の最適化を図るとともに、月例会議等での個々の意向を相互に確認して業務の質的向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社として、個々の職員の勤務状況、実績を把握し、反映させていく体制作りを行っている段階である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に適した研修を受けられるよう努めているが、実情として業務をしながらの研修参加が難しい時もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	恵庭市内でのグループホーム主体のネットワークがあり、その中で研修を行ったりし、サービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、不安などどのようにしていきたいかなどのお話を受け止め、安心して委ねていただけるような信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴を重視し、大切なご家族である方を、安心して託していただけるよう、また常に気軽に相談していただけるような体制作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要求を伺い、出来るだけ多くの情報を得たうえで、現状に合わせた支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている。家族のような関わりの中、役割も持っていたり実施している。職員としても、利用者さんに教えていただくことも多く、「ありがとう」と言葉をかわしあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に来所時や、電話にて近況報告するとともに、関わりに対し、ご家族からの要望、意見なども聞けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話の中で、行きたい場所やゆかりのある所などを聞き出し、外出レクとして実施している。知人、友人の訪問もある。	友人・知人の来訪を大切にするとともに、家族の来訪を通じ、また職員自身が親しい家族的关系に留意するなど、利用者個々との馴染みの関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の意思や意見、または介護士からみて一番良いと思えるような環境作りをしている。孤立している時には、職員が間に入り対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人と職員間の関係は築けるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話すことを傾聴し、対応させていただいている。出来ないことは、納得していただくよう、お話しさせていただいている。	職員は理念の骨子にある、その人らしい自由さ、笑顔ある満たされたひと時を大切に、話や表情を観察し、よく聞いて、その人らしい意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り、ご本人の今までの生活習慣に寄り添う介護に努めているが、時間がなく対応が難しい時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状での一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への支援を第一とし、その方に対しベストな支援となるよう、話し合いの場を持ち、意見・アイデアを出していただいたうえで、要望に合うよう計画を作成している。	日常、利用者・家族本位の支援に努め、カンファレンス会議等の合意・観察記録を基に、定例的、あるいは変化に応じて、家族の意向や心身の状態を含め計画作成を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、職員間での情報共有、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応して、既存のサービスのみには捉われない柔軟な対応ができるよう、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事前に把握し、活用できるかどうかを検討したうえで、生活に楽しみや張りがあるような支援ができるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医には継続して受診している。病院の変更や、新しくかかる必要がある場合は、ご家族を含め、説明してから受診している。	利用者個々のかかりつけ医の継続受診を尊重して支援している。看護師が経過を記録管理するとともに、家族への説明や協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察したことを申し送りで継続して観察していけるよう情報を共有している。その中で適切な受診、看護を受けられるよう対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、こまめな情報交換ができると思う。もっと積極的に病院と関わる必要がある。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の利用者様への現時点での事業所として行えることを説明し、終末期に対応している。	重度化や終末期の対応は、契約時の対応指針に基づき、心身の状況に応じた関係機関との具体的な処遇を合意している。終末的対応者も少なくない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修をもうけ、看護師と協力して急変、対応に努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち合いのものと避難訓練を行っており、職員間で避難法を身につけている。その際には、地域住民の方にもボランティアとして参加をお願いしている。グループホームの合同避難訓練の参加もしている。	年2回の想定訓練を関係機関の協力を得て実施している。職員間での組織的合意や防災設備の定期点検と共に、防災に伴う備蓄・備品の備え、地域組織との連携を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しさの中にも、人生の先輩として、敬意を持ち、人格を尊重しながら支援をしている。	利用者それぞれの生活経験を経た人柄の個性を尊重して、その誇りやプライバシーを損ねることのない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中や質問をすることで、ご本人の思いを引き出し、希望を表したり、自己決定を出来るよう、心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者様のペースに合わせるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を尊重し、身だしなみやおしゃれをお手伝いしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を食べる楽しみや、季節行事にあうメニューにしたり、好き嫌いに応じた食事内容を提供している。食事の準備・後片付けもできる方にはお願いをしている。	利用者個々の嗜好、心身の状況を踏まえて、満足度の高い食事となるよう工夫している。利用者が食事作りに加わり、季節や行事に応じたメニューを提供するなど、楽しい食事のひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表に沿って、栄養価を考えて調理をしている。個人個人に合わせて食事形態を工夫している。水分も個人差に応じ、適切な量を取っていただけるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時・起床時の口腔ケアの支援・声掛けをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンで介助・声掛けを行っている。出来る限り自立に向けトイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者の排泄にはその自立支援を基礎に、排泄パターンを共有し、声掛け等に努め、トイレ排泄での支援に努めている。また用具等についても家族の協力を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整をドクターの許可をもらい、行っている。薬以外でも繊維質の多い食材や乳酸菌を食事に取り入れるなどの工夫をしている。軽い運動、腹部マッサージでの便秘解消できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日にちが開かないよう、すすめているが、拒否が強い場合は見送り、気分のいい日に入浴していただくようにしている。入浴剤なども使用し、気分良く入浴していただけるよう、努めている。	入浴のタイミングは利用者により難しい時もあり、時に苦勞しながら、気分等を促し入浴を進めている。入浴後は「さっぱりしてしている」とのことに励まされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンやその時の体調・状況に応じ休息できるようにしている。居室環境にも気を使い、ゆっくり眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を考慮し、台所作業や季節での花植え、野菜収穫、ほか行事参加などを通じ、生活に張り合いを持っていただけるよう支援している。唄やカラオケでも楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添えるように話し合い、戸外に出られるようにしている。遠方の場合、全体会議を持ち、対応できない場合、ご家族へお伝えし行っていただく場合もある。	玄関先にはバラが咲き、周りの花壇、野菜畑と共に、愛でる楽しみを味わっている。利用者個々の高齢化や介護の重度化もあり、個々の状態に応じた地域の催事等の楽しみなど、外出の機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される場合、お小遣い程度、持っていたいく事もある。買い物の際、ご自分で選び、支払いしていただくなどの支援も時々おこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙ともに希望に応じ、対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の大半を過ごす場所でもある為、居心地や安全性も考え、常に気にかけるようにしており、手作りの装飾品や観葉植物を置き、会話が弾む楽しみもなっている。家庭的な空間作りをしている。	居室の中央に位置する居間はキッチンとともにあり、食事作りの場であり、食後の団欒の場である。季節や行事等の飾りつけ、観葉植物等の配置など家庭的な雰囲気を醸している。温・湿度、採光等の管理も良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は独りになれる場所はないが、居間のフロアでは入居者同士、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた物や、家族写真・作品など置かれている。空間作りを工夫するようにしている。室内装飾は個々にしている。	個々の居室は、家族の協力を得て、個々の馴染みの備品や備具、馴染みの飾りつけや家族写真等で、居心地良い部屋作り支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動がスムーズになるよう、全体的に設置されており、洗面所・トイレ・居室など分かりやすいように張り紙をし、判断しやすいようにしている。		